

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間		2024年9月10日～2024年10月8日																					
注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別										リンク1	リンク2			
									当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・再編	感染症状況					
									当該機関	支援対象	重点感染症	その他疾患	外部から当該機関へ										
★	1	2024/9/13	WHO	Mpox、ワクチン、Bavarian Nordic、MVA-BN、事前承認	WHO prequalifies the first vaccine against mpox	WHOはBavarian Nordic社のMVA-BNをMpoxに対する初めてのワクチンとして事前承認リストに追加すると発表	9月14日、WHOはBavarian Nordic社のMVA-BNをMpoxに対する初めてのワクチンとして事前承認リストに追加すると発表した。今回の事前承認は、Bavarian Nordic社から提出された情報と欧州医薬品庁EMAによる審査にもとづく。MVA-BN ワクチンは、18歳以上の大人に対して、4週間間隔で2回接種することができる。現在、18歳未満の小児には認可されていないが、ワクチン接種の有益性が潜在的なリスクを上回る場合は、「適応外使用」として乳児、小児、青少年、ならびに妊娠中および免疫不全の人々にも使用できる可能性がある。また、WHOは供給が限られている流行状況下では、1回投与を推奨している。WHOは、このような状況下でのワクチンの安全性と有効性に関するさらなるデータの収集の必要性を強調している。WHOでは今回追加されたMVA-BN以外にLC-16とACAM2000という2つの他のMpoxワクチン製造業者との間で、事前承認と緊急使用リスト(EUL)取組の進捗を進めている。また、緊急使用リスト取組のためのMpox診断薬に関する関心が6件寄せられている。	Mpox	●		●										リンク		
	2	2024/9/13	WHO	インフルエンザ、治療ガイドライン	WHO updates influenza care guidelines, includes recommendations for viruses with pandemic potential	WHOがインフルエンザ治療ガイドラインを改定し、パンデミックを引き起こす可能性があるインフルエンザ等への治療指針を提示	WHOがインフルエンザ治療ガイドラインを改定し、パンデミックを引き起こす可能性があるインフルエンザ等への治療指針を提示	インフルエンザ			●											リンク	
★	3	2024/9/13	WHO	Mpox、MCM、アクセス・配分メカニズム	WHO and partners establish an access and allocation mechanism for mpox vaccines, treatments, tests	WHOとそのパートナーがMpoxに対するMCM(危機対応医薬品等)へのアクセスと配分のためのメカニズム(AAM)を設立	WHOとそのパートナーがMpoxに対するMCM(危機対応医薬品等)へのアクセスと配分のためのメカニズム(AAM)を設立	Mpox	●													リンク	
★	4	2024/9/13	NIH、NIAID	将来的なパンデミック、ReVAMPP、MCM	NIH awards establish pandemic preparedness research network	NIH傘下のNIAIDは、優先度の高い感染症に対するワクチンやモノクローナル抗体の研究開発を推進するために、パンデミック対策研究ネットワークReVAMPPを構築	NIH傘下の国立アレルギー・感染症研究所(NIAID)は、優先度の高い感染症に対するMCM(危機対応医薬品等)の研究開発を推進するため、「パンデミック対策のためのワクチン・モノクローナル抗体の研究開発ネットワーク」(Research and Development of Vaccines and Monoclonal Antibodies for Pandemic Preparedness network, ReVAMPP)を構築した。NIAIDは年間約1億ドルを拠出する予定。ReVAMPPでは、クリミア・コンゴ出血熱、ラッサ熱、フラビウイルス科(デング熱等)、パラミクソウイルス科(麻疹等)、ピコルナウイルス科(ポリオ等)、トガウイルス科(チクングニヤ等)等のウイルスに焦点を当て、ワクチン候補やモノクローナル抗体の開発研究に重点的に取り組むことで、対象となるウイルス科のウイルスがパンデミックの脅威となる場合に、より迅速かつ効果的なパンデミック対応の基盤を築く。ノースカロライナ州ダーラムのリサーチ・トライアングル研究所が、調整およびデータ共有の中心拠点となり、ネットワークのサポートと調整を行う。	クリミア・コンゴ出血熱、ラッサ熱、フラビウイルス科(デング熱等)、パラミクソウイルス科(麻疹等)、ピコルナウイルス科(ポリオ等)、トガウイルス科(チクングニヤ等)等	●		●	●	●								リンク	リンク	
★	5	2024/9/16	UNICEF	Mpox、資金調達	UNICEF appeals for US\$58.8 million to address mpox crisis as cases among children rise	子供のMpox感染の増加を受けて、UNICEFが5,880万米ドルの資金援助を要請	アフリカでMpoxが流行し、子供が最も大きな影響を受けていることから、UNICEFは5,880万米ドルの資金援助を要請した。今回の要請は、クレード1の感染が増加しているアフリカ6ヶ国の子供への支援を目的とする。UNICEFのMpoxへの取組みは、健康・教育当局による計画や取組みの調整、リスクコミュニケーション、感染の抑制、ワクチン接種、患者治療のマネジメント、メンタルヘルスの支援、社会サービスなどの基本サービスを柱としている。UNICEFは、パートナーと連携しながら、感染拡大のリスクが高い他のアフリカ諸国にも支援を広げていく。	Mpox	●		●											リンク	

	26	2024/10/3	WHO	WHO, Mpox, 検査キット、IVD、緊急使用リスト、EUL、In Vitro Diagnostics	WHO approves first mpox diagnostic test for emergency use, boosting global access	WHOがアボット・モレキュラー社の体外診断用医薬品(IVD)をMpox検査キットの第1号として緊急使用リストに掲載	10月3日、WHOはアボット・モレキュラー社の検査キット Alinity m MPXV assayをMpox用の体外診断用医薬品(In Vitro Diagnostics : IVD)として初めて緊急使用の承認をし、緊急使用リスト(Emergency Use Listing : EUL)に記載した。Alinity m MPXV assayは、real-time PCRを用いて患者の皮膚病変部のスワブからウイルス(クレードI/II)のDNAを検出する。WHOはMpoxのPHEIC(国際的に懸念される公衆衛生の緊急事態)宣言を受けて、8月24日に製造業者に対してEULへの関心表明を提出するよう呼びかけた。今回承認された検査キット以外に、WHOはEUL評価のための追加提出書類を3件受理している。	Mpox	●		●											リンク
★	27	2024/10/3	BARDA	BARDA, Project Bioshield, メルク、ERVEBO, エボラ、出血熱、	BARDA procures ERVEBO doses from Merck to strengthen preparedness for Ebola virus	BARDAはProject Bioshieldの資金で、ザイールエボラウイルスによる緊急事態に備えてメルク社のエボラ出血熱ワクチンERVEBOを調達	BARDAは、Project BioShieldの資金で、メルク社のエボラ出血熱ワクチンERVEBOを調達する。この調達により、米国政府はワクチンの供給を維持し、製造能力を維持することができ、ザイールエボラウイルス(一般にはエボラウイルスとして知られている)の発生に備えることができる。契約オプションにより、BARDAはワクチンの製造工程の最新化の開発も支援できる。ERVEBOは、ザイールエボラウイルスに有効なワクチンとして、これまでに西アフリカやコンゴ民主共和国における流行時に使用されている。	エボラウイルス	●		●			●								リンク
	28	2024/10/3	BARDA	BARDA, Lumos Diagnostics, 迅速検査キット、呼吸器感染症、抗菌薬	BARDA and Lumos Diagnostics Partner to Bring Testing Closer to Patients	BARDAはLumos Diagnosticsとパートナーシップを結び、同社による呼吸器感染症の迅速検査キットの実用化とCLIA-waiver取得を支援	BARDAは、Lumos Diagnostics社と提携し、同社が開発する迅速検査キット FebriDx bacterial/non-bacterial point-of-care testの臨床試験とCLIA -waiver認証の取得を支援する。本キットは、all-in-oneタイプのpoint-of-careラテラルフローテストで、細菌性感染により増加するCRP(C reactive protein)と非細菌性感染により増加するMxA (Myxovirus resistance protein A)を検出することにより、呼吸器感染症が細菌性かどうかを約10分間で判定できる。これにより臨床医の抗菌薬使用判断が容易になり、抗菌薬の適正使用が促進される。今回の提携は、BARDAの2022-2026 Strategic Planに沿ったものである。	その他(呼吸器感染症)、薬剤耐性菌	●		●		●	●								リンク
	29	2024/10/7	BARDA	BARDA, Mode X Therapeutics, Project NextGen, SARS-CoV-2抗体	BARDA Continues Partnership with ModeX Therapeutics under Project NextGen to Develop Multispecific Antibodies for SARS-CoV-2	BARDAは最大3,500万ドルを拠出して、Project NextGenのもとで開発が進められているModeX Therapeutics社のSARS-CoV-2多重特異性抗体の研究開発を継続することを決定	BARDAは、Project NextGenのもとでModeX Therapeutics社(OPKO Health社の子会社)が開発を進めているSARS-CoV-2多重特異性抗体(mAb)の開発を継続する。BARDAは、2023年9月から同社のmAb開発を支援している。今回の契約では、最大3,500万ドルを拠出して、2つ目の多重特異性mAbの前臨床から第1相試験までを支援する。開発される多重特異性mAbはRNA発現型で、病原体の複数の系統に対する防御が可能になるとともに、病原体の変異の影響も受けにくくなる。さらに、従来のモノクローナル抗体よりも製造コストの削減が期待できる。	コロナウイルス感染症	●		●		●									リンク

注目記事星取ルール
ワクチンの開発状況
ワクチンや重点感染症に関するFAの戦略/方針
ワクチン開発関連において新規技術の活用